岩田内閣府副大臣（金融担当）就任インタビュー

岩田　和親（いわた　かずちか）

生年月日	昭和48年9月20日
出身地	佐賀県
選挙区	佐賀第1区
趣味	映画鑑賞、ジョギング、料理

※略歴詳細：官邸ウェブサイト

高市内閣発足に伴い、本年10月22日に就任した岩田和親内閣府副大臣（金融担当）に、意気込みや日頃の活動等について伺いました。

ーはじめに、内閣府副大臣（金融担当）に就任され、その意気込みについてお聞かせください。

高市政権においては成長戦略が政策の看板ですが、その中で金融の果たす役割は極めて大きいものと思っております。国民の皆様が日本の将来に対して希望を持ち、前向きに経済活動に取り組むことで好景気を生み出していけるような環境を、「金融」の面から作っていきたいという思いがあります。

私は、直近５年くらいは経済関係の役職を多く務めてまいりましたが、その中で様々な課題意識を持っています。一つは、中小企業や小規模事業者を中心とした地域経済のあり方を持続可能な形にしていきたいと思っています。私は佐賀県の出身で、実家の家業の経営に携わったこともあります。この経験を活かし、中小企業経営者の目線からも、地域金融力の強化に資するような取組みをしていきたいと思っております。また、世界的に見ると、フィンテックやブロックチェーンなど、金融に新しい技術を取り込む大きな流れの中にありますので、日本も伍するよう、しっかりと対応してまいります。

ー国会議員を目指すこととなったきっかけについてお聞かせください。

私は25歳の時に、当時全国最年少で佐賀県議会議員選挙にて初当選し、その後約12年間県議会議員として活動した後、国会議員になりました。

政治家を目指したきっかけの一つは、県議会

議員をしていた父が、47歳で他界をしたことです。当時私は20歳でした。また、私が大学に入学した頃は非常に世の中の景気が良く、社会人になることに希望を持っていましたが、卒業時に就職氷河期に直面しました。当時は米ソの冷戦が終結し、世界情勢が大きく変わっていく中で、大学生として、日本はこれからどうなっていくんだろうと強い不安を感じていました。そうした中で、父の他界をきっかけに、政治家になるということを一つの選択肢として考えるようになったのです。

県議会議員として活動しながら、国の大きな仕組みが変わらなければ様々な課題が解決できないと感じることがありました。また、政治家とは、国民の皆様から信頼をいただきながら、日本のあるべき姿をしっかり示し、国民をリードしていくべき存在であると考えました。さらに、そのような姿勢が問われている時代だとも強く感じ、自分としてもチャレンジをしてみたい、政治家としての姿勢を国民に示していきたいという思いから国会議員になるという決断をしました。

ー国会議員としてこれまで取り組んでこられた中で、印象深い出来事は何でしょうか。

一つはスタートアップ政策です。これは個人的に思い入れがあり、これまでも取り組んできた政策課題の一つです。私が経済産業省で大臣政務官をしていた時、当時の岸田総理にスタートアップ政策について強く直訴したことがありました。それは年末のことだったのですが、年明け（2022年１月）に岸田総理が記者会見で、「今年をスタートアップ創出元年にする」と打ち出されたのです。以来、私は経済産業省で、「スタートアップ育成５か年計画」の策定をはじめとした様々なスタートアップ政策に取り組み、企業への環境整備は一定程度進んできたと思っております。高市政権においても、スタートアップ政策はまさに成長戦略の検討課題の一つとなっていますので、金融庁としても、スタートアップ企業に資金をしっかり供給できるような環境をさらに作っていかなければなりません。また、その結果として、スタートアップ企業がどんどん成長し、日本の経済を支え、ひいては世界をリードできるように取り組んでまいりたいと思っています。

加えて、経済産業分野では、エネルギー安全保障にも思いを持って取り組んできました。経済産業副大臣在任中は、UAEに２度訪問するなど、エネルギーの様々な課題に接する機会が多くありました。日本は海外からエネルギーを輸入しなければ生活も経済も成り立たないという前提がありますので、それをいかに安定して確保していくのかが課題です。日本が成長していくためには、エネルギーが安定供給されることが不可欠ですので、この分野への取組みをこれからも大事にしていきたいと思います。また、経済産業副大臣と兼務で、原子力災害現地対策本部長も担当しておりました。福島県には家族や親族もおらず、就任当初は福島と直接的なつながりはなかったのですが、福島の皆さんの、自分たちのふるさとを復興させていこうというひたむきな思いをお支えする、そのようなお仕事をさせていただいて、今では福島は第二のふるさとと言っても過言ではないくらい強い思い入れがあります。

写真：岩田副大臣とワニーサ

ここまで経済産業省の話ばかりしてしまいましたが、防衛大臣政務官も務めたことがあります。防衛省での経験が、現政権の重要テーマである「安全保障」にもつながっていると感じますし、ここまで国会議員として幅広く経験を積むことができた点についてはありがたい限りです。ぜひとも、強い日本、未来に向けて前向きな日本を作っていきたいなと思います。

―休日の過ごし方を教えていただけますか。

休みはなかなか取れないですね（笑）。12月31日は休むことができると思いますが、１月１日から、地元佐賀の「新春五社参り走ろう・歩こう会」や神社前での街頭活動などの予定が入っています。

―健康に気を遣っていらっしゃるんですね。

そうですね。私も50歳を過ぎましたので、自分で意識して健康維持に努める必要があるなと痛感しています。例えばジョギングなど体を動かすと、仕事で凝り固まった頭や肩が楽になりますし、血圧も落ち着きますね。正直忙しくて運動をする時間がなかなか取れないのですが、毎年３月に地元で開催される「さが桜マラソン」には10年以上続けて参加しています。来年も10キロのコースに出る予定なのですが、もともと運動が得意な方ではないので、余裕を持って走れるよう、そろそろ準備を始めたいなと思っています。

また、仕事柄会食も多く、お酒も好きなので、公私ともに飲む機会が多いのですが、最近は健康に気を遣って「お酒を飲まない日」を意識的に作っています。

映画鑑賞も趣味ですが、なかなか映画館に行く時間が取れません。最近は動画配信サービスで家でも映画を観ることができますが、結局、まとまった時間が取れなくて、観たい映画が溜まっている状態ですね（笑）。

以上

（インタビュアー：広報室長　久米　均）

写真：インタビューの様子